

太古の湖 びわ湖

琵琶湖博物館専門学芸員 里口保文

2014年11月12日
NHK総合TV

日本最大の大きさを誇る琵琶湖は滋賀県にある湖で、日本唯一の古代湖です。

日本で最大の面積と貯水量を持っています。

琵琶湖の豊かな水が自然の生態系に大きな影響を及ぼし、人類の発展に大きく貢献してきました。

琵琶湖は世界の湖の中でも、バイカル湖やタンガニーカ湖に次いで成立が古い古代湖であると考えられている。

古代湖(こだいこ、英語: ancient lake)とはおよそ10万年以上存続している湖の呼び名。

一般的に湖の寿命は数千年から数万年と言われている。

これは、流入する河川からの堆積物で湖が埋め立てられるためである。しかし一部の湖は10万年以上の年齢をもち、

なかには数百万年から2000年以上の寿命を有する湖が存在する。このような湖を古代湖と呼ぶ。

古代湖では水域が長期間に渡って存在するため、固有種と呼ばれるその湖に適応して独自の進化を遂げた生物による

豊かな生態系が見られる。世界でも古代湖は20箇所ほどでしか確認されていない。

初めの琵琶湖は今から400万年前に小さな湖として発生しました。日本が大陸とつながっていた時代です。

現在の三重県伊賀市平田に地殻変動によってできた構造湖で、小さな琵琶湖の水は伊勢湾の注いでいました。

その後、地球の地殻変動があり、琵琶湖は北に移動、西側の断層が移動しています。

40万年前に現在の場所・大きさになり、琵琶湖の水は淀川となり大阪湾に注いでいます。

琵琶湖北部にある竹生島はかつての山の頂上です。

縄文時代や弥生時代から交通路としても利用され、丸木舟なども出土している。古代には、都から近い淡水の海として**近淡海**(ちかつあわうみ、単に淡海とも。古事記では「淡海の湖」(あふみのうみ)と記載)と呼ばれた。

天智天皇により、一時は琵琶湖西岸に大津宮が置かれた。測量技術が発達し湖の形が琵琶に似ていることがわかった。

江戸時代中期以降、琵琶湖という名称が定着した。

琵琶湖は、若狭湾沿岸からの年貢の輸送路としても利用されており、湖上で賊に襲撃された記録なども残されている。

湖西には、大津から若狭国へ向かう西近江路や若狭街道、京都から琵琶湖などを経て今庄から北陸道につながる

「北国街道などの各種交通路が整備された。湖上交通による荷物の輸送も行われており、大津や堅田などは

港湾都市として発達した。

琵琶湖が淀川となって大阪湾に流れる位置から、若狭湾で陸揚げされた物資が琵琶湖上の水運を介して京都や大坂に輸送された。こうした輸送は明治以降もしばらく隆盛であったが、陸上交通の発達によって次第に斜陽となった。